

混声合唱団ブルーメンクランツとは…

2003年3月、常任指揮者・小林昭裕、団長・佐藤雅代の呼びかけにより、慶應義塾大学混声合唱団楽友会のOB/OG有志を中心メンバーとして創団。その後順調にメンバーを増やし、現在では職業・経歴とも多彩なメンバーが集結した活気ある社会人合唱団となっている。東京芸術大学の大学院生を指導陣として「21世紀の歌をうたおう」をキャッチフレーズに、「平均年齢約27歳」ならではの感性を生かした丁寧かつ表現力のあるアンサンブルを目指し活動を行っている。

プログラム紹介

トムキンス (1572-1656 [イギリス]) “羊飼いや、集めて歌え”

ウィリアム・バードの弟子といわれる英国のバロック初期の作曲家の手になるマドリガル。快活で明るく、そしてちょっと意味深なニュアンスを持つ佳作である。

S. D. サンドストレム (1942-[スウェーデン]) “主よ、我が祈りを聞き給え”

スヴェン・ダヴィッド・サンドストレムは現代スウェーデンの作曲家であり、声楽作品を多く書いている。本曲は英国17世紀の作曲家ヘンリー・パーセルの未完成楽曲をサンドストレムが編曲・補作し、現代に蘇らせた作品。

ストラヴィンスキー (1882-1971 [ロシア]) “アヴェ・マリア”

イゴール・ストラヴィンスキーといえば「火の鳥」「春の祭典」などのバレエ音楽で有名だが、後期の作品には宗教曲・合唱曲も多い。「アヴェ・マリア」は1934年の作品。

武満徹 (1930-1996 [日本]) “混声合唱のための「うた」より

日本の誇る大作曲家による、名曲揃いの合唱曲集より2曲を抜粋。今回は日本古謡のアレンジ「さくら」と、谷川俊太郎氏の詩による「死んだ男の残したものは」を演奏する。

山田香 (1978- [日本]) 委嘱作品 (初演)

山田氏は東京芸術大学院作曲科出身で、コンピュータを使った音楽作品を得意としている。今回、当団音楽監督小林昭裕の依頼により、この演奏会のために新曲を作曲して頂けることになった。当然ながら、本公演が世界初演となる。

青木愛 (1979- [日本]) “ある時”

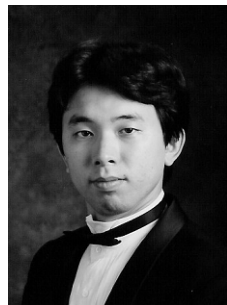
青木氏は山田氏の東京芸術大学の同期にあたる。「ある時」は1999年に東京芸術大学において初演された作品で、歌詞は明治期の詩人、山村暮鳥の詩から取っている。現代作品らしい、空間を大胆に使った一曲である。

A. ブリス (1891-1975 [イギリス]) “パストラル：羊の群は野に安らう”

サー・アーサー・ブリスは日本ではあまり知られていないが、エルガー、ブリテンといった今に名を残す作曲家たちの多い20世紀の英国で活躍した作曲家である。その特徴はフランスの六人組などに影響を受けた、独特の鮮やかな色彩感にある。本曲は1928年に発表された全7曲からなる組曲で、管弦楽とメゾ・ソプラノを伴う。古い時代の田園詩とギリシア神話を題材とし、生の喜びを高らかに歌い上げる美しい作品である。

指揮者・出演者紹介

小林昭裕 (常任指揮者・音楽監督)



慶應義塾大学経済学部卒業。東京芸術大学音楽学部声楽科を卒業し、現在同大学院修士課程オペラ科に在籍。多田羅迪夫、野本立人の各氏に師事。合唱指揮者としての活動のほか、モーツァルト「コシファントツッテ」ドンアルフォンソ、「フィガロの結婚」伯爵、ベートーヴェン「第九」、デュリュフレ「レクイエム」バリトンソロなどに出演している。

富岡明子 (メゾソプラノ)



東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。在学中に安宅賞受賞。卒業時にアカンサス音楽賞ならびに同声会賞受賞。2003年東京文化会館主催東京音楽コンクール第3位入賞。篠崎寿、高橋修一の各氏に師事。現在同大学院修士課程在学中。

■混声合唱団ブルーメンクランツ 団員募集中■

混声合唱団ブルーメンクランツでは、一緒に歌っていただける方を募集しております。年齢・経験は「見学に来ていただいて、フィーリングが合いさえすれば」不問です。

ご興味がおありの方は、E-Mail> pjok-owner@egroups.co.jp / TEL> 090-1541-1549 (いずれも団長・佐藤) までお問合せください。また、ホームページもあります。URL> <http://f14.aacafe.ne.jp/~blumenk/index.html> 皆様のご来訪をお待ちしております!